

## 立高生活の指針

高校生活の3年間は、一人一人の将来にとって大きな意義をもつ時期です。自己の成長と充実を目指す自覚ある生活を送ることが望まれます。

高校生活では、一生を通じて自ら学び続けていくための基礎的な力を身に付けることが中心になります。学校における教科の学習、ホームルーム、生徒会活動や行事への参加はもとより、校外においても自ら学習の場を見出すように努め、健康な生活を築くことに意欲的にとりくみたいものです。

学校での学習は、計画的・組織的に編成されており、先生の指導のもとに集団の中で学ぶことに特長があります。先生と生徒の信頼関係は学校生活の目標に向かって、各々の立場で真剣に努力していく中でつくられます。

学習が個々人の努力に基礎をおくものというまでもありませんが、個人的勉学のみでは限界があります。学習の成果は学校生活の中で相互に啓発しあうことによって深まっていくものです。生徒諸君の毎日の精励努力に期待します。

## 自律的生活

高校生活では各教科の学習が深まり、また自主的な活動の分野も広がります。忙しさを回避して活動分野を縮小したり、また広げすぎて、自分の生活の基調を見失うことは望ましくありません。自分の条件にみあった実行できる生活設計を持ち、時間を計画的に大切に使うことが肝要です。

他から指摘されたり規制されたりしなくても、自分の言動に責任をもてる自律性の確立は個人生活にとっても集団生活にとっても基礎となります。各個人の自律的生活が崩れた場合には、集団生活はお互いに高めあう契機にはなりません。自律的生活を基盤とした学校生活全体の向上があってはじめて個人の高校生活も充実するのです。

## 学友間の協力

高校時代の学友は、一生を通じてかけがえのないものになるに違いありません。学友としての関係は、互いに協力を惜しまず、共に向上をはかることということがその基本です。それは、学ぶものとしての共通の目的と、学校生活を共にすることによって育まれる友情とを基礎に成り立つものです。立高生活においては、それぞれが自分の殻に閉じこもることなく、協力して学習を進め、ホームルーム、生徒会などの活動にも積極的に参加し、共同の体験を通して学友との親睦を深めることが大切です。

自分と他人の違いのみを強調するのではなく、世代を同じくする者の共通の問題を心を開いて語り合い、共通の立場を見い出していく誠実な努力によって、はじめて互いに尊重しあい励ましあっていくことのできる友人が得られるのです。このことは同性であると異性であるとを問わず、基本的に変わりありません。

## 公共施設・公共物の利用

学校の諸施設・公共物は全生徒が共同で利用します。その利用に際しては自分だけではなく他の人々の利用に支障がないよう配慮することが必要です。とくに、使用後の後始末と、常に使用責任者を明らかにしていることが大切です。

学校生活の発展には、施設や公共物の充実も大切な要求です。まず現在の施設や公共物を大切に扱い、常に整備して、その活用を計り、その上で施設の一層の充実に努めることが肝要です。特に、本校には定時制があり、午後5時以降は定時制の専用となる施設もあります。施設や公共物の利用に際しては、この点も常に注意して定時制に迷惑をかけないようにしたいものです。